

会 報

(No.481)

2026年7月

題字：故 津村重舎元会長



オニユリ（写真提供：元昭和大学薬学部 磯田 進 先生）



公益社団法人 東京生薬協会

Public Interest Incorporated Tokyo Crude Drugs Association

会 報

目次

No. 481 2026 年 7 月

【表紙】 オニユリ 写真：元昭和大学薬学部 磯田 進

■ ご挨拶

巻頭言：『伊勢原から始まる、国産生薬の新たな歩み』

..... 神奈川県伊勢原市長 萩原 鉄也 3

■ 寄稿

生薬のチカラは、漢方のチカラ (5) ～高齢者の漢方～ (前編)

..... 昭和医科大学薬学部 天然医薬治療学部門 川添 和義 4

ロシア・プリモリーエ植物紀行 (6)

..... 植物写真家・研究家 いがり まさし 8

春の薬草観察会・道中記

..... 学術委員 池村 国弘 11

委員会だより 15

連絡事項・行事報告・ご寄附のご報告 18

新役員名簿 19

【裏表紙】 四季の薬草・オニユリの解説 元昭和大学薬学部 磯田 進

伊勢原から始まる、 国産生薬の新たな歩み

神奈川県伊勢原市長

萩原 鉄也



公益社団法人東京生薬協会様におかれましては、平素から薬用作物の国内栽培促進に対し、格別の御理解と御協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

この度、約一年間にわたり協議や調整を経た中で、「薬用植物国内栽培の促進に関する連携協定」を締結できましたことは、偏に貴協会の熱心なご指導のおかげであり、心からの感謝を申し上げます。

さて、伊勢原市は、神奈川県のおおやまの中央部に位置し、北西部には伊勢原のシンボルである大山がそびえております。季節の自然と多くの歴史文化を誇る大山は、古来より、霊山として人々の信仰を集め、江戸時代には大山詣りとして、関東一円から多くの人々が訪れており、近年では都心から近距離にある憩いの地として多くの観光客や登山客が訪れています。

また、日向地区には、日向薬師の名で親しまれている日向山宝城坊があります。人々の健康を願う薬師如来を御本尊とし、古くから多くの人々が深い信仰を寄せてきた寺院であり、薬用作物との運命的な親和性を感じています。

当市は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、大都市近郊という立地条件を活かした中で、神奈川県内でも有数の水田地帯であり、新鮮かつ良質な野菜、果樹、花き等の栽培や、畜産経営も積極的に展開しており、多種多様な農業生産活動が行われております。

当市における生薬栽培の取組としては、市内に拠点を置く一般社団法人国産生薬生産普及協会様が、11年ほど前からマオウの栽培を行っており、優良系統の選定、継続的な試験栽培等の努力が実り、令和5年8月には約45キロのマオウを初出荷されました。

大変嬉しいことに、こうした実績のある国産生薬生産普及協会様から、令和7年5月、国内産生薬の安定的な供給を目指し、市内の農地を活用して生薬の原料となる「キキョウ」を栽培したいとの御要請をいただき、令和8年4月21日に、全国で7例目となる「薬用植物国内栽培の促進に関する連携協定」を締結いたしました。

「キキョウ」は、市の花として制定しており、市内で没した戦国武将、太田道灌公の家紋に使用されているなど、大変深い繋がりがあります。今回の協定締結は、「日本一の健康都市」を目指す当市にとって、力強い大きな一歩を踏み出せたものと、感じております。

今年5月には、東京生薬協会様を通じて医薬基盤・健康・栄養研究所様から御提供いただいた種苗から育苗した苗を、市内のは場で無事に定植することができました。気候風土に合わせた栽培技術の確立、栽培に携わる人材の確保と育成、そして安定供給体制の構築など、乗り越えなければならない高いハードルがございますが、長年の経験と高度な専門性を持つ関係各機関の皆様にご協力いただき、来年秋の収穫を目指し、地域の農業者が中心となり栽培管理に取り組んでまいります。

この連携協定を出発点として、薬用作物の国産化の推進に寄与するとともに、地域農業の維持・発展に取り組んでまいりたいと考えておりますので、東京生薬協会様をはじめとする関係各位におかれましては、今後とも一層の御指導、御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

生薬のチカラは、漢方のチカラ(5) ～高齢者の漢方～(前編)

● 昭和医科大学薬学部天然医薬治療学部門 川添 和義 ●

はじめに

高齢者の疾患には漢方治療が効果的なものが多く、また、日中に仕事のある現役世代に比べて、1日3回の服用が継続しやすいというメリットもある。さらに、漢方薬の副作用は比較的穏やか(マイルド)であるため、高齢者と漢方薬の親和性は高い。そこで今回は、高齢者に対する漢方治療の有用性について、2回にわたってまとめたいと思う。

基本的な漢方の考え方については、これまでの寄稿文も参考にさせていただきたいが、重要な点について簡単に振り返っておく。まず、漢方における病気の捉え方は、「私たちの身体は常にバランスを保っており、そのバランスが崩れると病気になる」というものだ。この崩れたバランスを「生薬の力」で元に戻すのが、漢方の基本的な治療方針である。バランスの乱れは「気・血・水」に生じ、それは「五臓六腑」と呼ばれる臓腑で起こる。崩れ方の状態としては、何かが不足している「虚」、余計なものが停滞・充実している「実」、冷えが生じている「寒」、熱感がある「熱」などがあり、これらを総合的に判断して「証」が決定される。この「証」にしたがって処方されるのが漢方薬である。

高齢者と「腎」

五臓六腑のひとつである「腎」は、西洋医学の腎臓と類似した働きを持つが、漢方特有の考え方として、精(身体のエネルギー源や構成成分)の管理、体温の調節、全身の水代謝、新陳代謝などを司るとされている。また、腎は髓(骨髄、脳など)、骨、頭髮を養い、その不調は耳に表れると考えられている。漢方医学では、臓器の機能は年齢とともに低下すると説明されており、「肝・心・脾・肺・腎」の順に、それぞれ50代、60代、70代、80代、90代から機能低下が始まるとされている¹⁾。つまり、腎は高齢期に衰えやすく、そのために聴覚の低下(難聴)や脱毛、さらに認知機能の低下(脳の機能低下)が見られると解釈できる。ちなみに、50代から衰え始めるとされる「肝」は目と深く関係しているため、目の衰え(老眼や白内障など)が最も早く訪れる。したがって、高齢者の疾患は腎と関係しているものが多く、治療においてはまず腎に働く処方が重要となる。

腎の働きのうち、最も重要なのが水代謝の管理である(図1)。水(津液^{しんえき})は私たちの身体を常に潤し、過剰な熱を冷ますことで、臓腑が正常に働くよう維持している。水は、食事から取り込まれた



図1：漢方医学で考える水代謝

る倦怠感や全身の冷え、耳鳴り、めまい、下痢などに頻用される。腎は新陳代謝を司るため、そこが冷えることで全身の倦怠感や新陳代謝の低下を引き起こす。基本的には五苓散と同様の仕組みだが、真武湯が対象とする病態では、脾の冷えが「心」にまで影響を及ぼし、動悸など心血管系の不具合を伴う点が特徴である（「水気凌心」と呼ばれる）。これに対して、茯苓と白朮（または蒼朮）が胃内の余剰な水を除き、さらに生姜と附子が腎と脾を芯から温めることで症状を改善する。

腎気・精の働きを改善する

—— 八味地黄丸、牛車腎気丸、六味丸

腎には、新陳代謝や体温を司るエネルギーである「腎陽」と、身体を構成する物質（精）を生み出す「腎陰」があり、これらがバランスよく働くことで腎機能が正常に保たれている。例えるならば、腎は「身体のストープ」であり、腎陽は「燃え盛る火」、腎陰は「燃やすための薪」である。しかし、年齢を重ねるにつれて、この腎陽（火）は低下していく傾向がある。

腎陽は、腎に集まった「清」の水を温めて肺に戻すための熱エネルギーだが、これが低下すると水が肺に戻れなくなり、腎の周辺に水が溢れてしまう。これが、高齢者に多い下半身のしびれや浮腫の原因の1つとしている。さらに、腎陽の低下は全身の冷えや倦怠感に直結する。また、不要な水である「濁」の排泄機能もコントロールを失い、多尿や頻尿（夜間頻尿など）をもたらす。この水代謝の乱れは口渴を引き起こし、同時に腎自体の機能低下によって耳鳴りなども生じさせる（腎の不調は耳に現れるため）。

これに対して、茯苓と沢瀉で水代謝を調べて浮腫を解消し、附子と桂皮で低下した「腎陽（火）」を力強く鼓舞するのが八味地黄丸である。配合されている地黄、山薬、山茱萸は「腎陰」を補う役割を果たすが、これはストープで言えば「薪」をくべる行為にあたり、潤いを与えながら間接的に腎陽の火を強める効果がある。また、牡丹皮は血の巡りを良くして浮腫を改善するとともに、「精は血へと変化する（精血同源）」という考え方にに基づき、腎陰（精）の働きをサポートしている（図3・図4）。

さらに、水代謝の悪化が深刻で、浮腫やしびれ



図3：腎陰と腎陽

がより強く出ている場合には、優れた利尿作用を持つ車前子と、高い血流改善効果を持つ牛膝を加えた牛車腎気丸が用いられる。八味地黄丸の別名を「腎気丸」と呼ぶことから、この名が付けられている。牛車腎気丸は西洋医学の領域でも、抗がん剤治療に伴う末梢神経障害（しびれ）の改善薬として広く活用されている。

腎陽の不足は、浮腫などの目に見える症状だけでなく、生殖機能にも深く関係している。先述の通り、漢方における「腎」の守備範囲は非常に広く、生殖器やその機能全般が含まれている。したがって、腎の機能低下（腎虚）はそのまま性機能の低下へと繋がる。高齢に伴う性機能の衰えは、漢方医学ではまさに「腎気の低下」として説明される。腎陽が不足すると、男性の場合は勃起不全（ED）を惹き起こしたり、男女問わず性的な関心や機能そのものが低下したりする。このような場合でも、八味地黄丸や牛車腎気丸を服用することで改善が期待できる。実際、牛車腎気丸が性機能不全に対して有効であったという臨床報告もある²⁾。

なお、民間薬やサプリメントの成分として知られる鹿茸、淫羊藿、杜仲、肉苁蓉、マカ、海狗腎（オットセイなどの陰茎・睾丸）、仙茅なども、漢方では「助陽薬」に分類され、主にこの腎陽を鼓舞する働きを持っている。

一方、エネルギー（火）と同様に、物質である「腎陰（薪・潤い）」が不足している場合も、生殖機能や全身の障害を招く。腎陰は「精」を作り出して身体の基礎を築くだけでなく、身体に必要な潤いや物質を供給して機能を正常に保つ役割があるた



図4：八味地黄丸のしくみ

めである。もし、身体を温めるエネルギー(腎陽)は十分に足りているのに、潤い(腎陰)だけが不足している場合、附子や桂皮のような「火をさらに燃え上がらせる生薬」を重ねる必要はない。そのため、八味地黄丸から桂皮と附子を抜き、純粹に腎陰を補う構成にした六味丸(六味地黄丸)が用いられる。

六味丸は、高齢者だけでなく、実は小児(子ども)にも非常によく使われる処方である。子どもはもともと代謝が盛んで「陽気(エネルギー)」が満ち溢れているため、腎陽は十分にある。しかし、生まれつき「腎陰(身体の基本となる潤いや物質)」が不足しているケースがあり、それが原因で風邪を引きやすいといった免疫力の低下や、治りにくい夜尿症(おねしょ)を引き起こすことがある。六味丸は、こうした「潤い不足」の状態に対して、年齢を問わず優れた効果を発揮する。

また、腎陰(潤い)の不足は、新陳代謝の低下を

招くだけでなく、体内の熱を冷ます力を弱めるため、相対的に腎陽(火)が強くなりすぎてしまう現象を引き起こす。その結果、顔ののぼせや、手掌・足の裏が異常に熱くなる症状が現れる。漢方ではこれを「虚熱(きょねつ)」と呼び、陽気が強くなった熱ではなく、潤い(陰気)不足によって生じた「相対的な熱感」と捉える。この場合にも、腎陰を補う六味丸が非常に有効である。体力が低下しているにもかかわらず体が火照る、手掌が熱い、寝汗をかく、といった症状が見られたら、六味丸を試してみる価値は十分にある。

今回は『漢方のチカラ(6) ～高齢者の漢方～(後編)』として、高齢者に利用できる漢方をさらに違う視点から紹介したい。

1) 『黄帝内経 靈樞』第五十四 天年篇。

2) 池内隆夫, 昭和医学会誌, 64(1) 35-38 (2004).

ロシア・プリモージェ植物紀行(6)

● 植物写真家・研究家 いがり まさし ●

5. スミレ編 その3 *variegata* complex

プリモージェで見られるスミレへの興味は、まず日本に自生する種との関係だ。特に「大陸に本拠がある」とされる種の実態はどうしても外せないところ。そのひとつがゲンジスミレである。しかし、この種をとりまくいくつかの種(*variegata* complex)は研究者による見解も様々で、情報も錯綜している。筆者の見解もはなはだ心もとないが、同種の日本語での情報はほとんどないので、議論の材料として現段階での見解を提示しておくことにした。

◆ *Viola variegata*

1998年最初に春のプリモージェを訪れた時、フイリゲンジスミレを見た。これは日本でも園芸品として栽培され時に逸出しているので、実物をよく知っていたが、むろん自生地を見るのは初めてだった。10種ほどのスミレが咲く岩山に沿った落葉樹林の林縁に生え、近くにはサキガケスミレとの雑種と考えられる個体もたびたび出現していた。プリモージェでは結局この1集団しか見ていないのだが、韓国を歩けばかなり普通に見ることができる。なかには葉脈斑のない集団もあるが、花卉の裏表が紅紫色になるものばかりで、斑がないからといって日本のゲンジスミレとは一線を画するものである。日本のゲンジスミレの花弁は肌色に近い淡紅紫色で、外側はやや紅紫色になることもあるが全体に淡色で変異も少ない。

その両者の中間的な印象の集団が、*subsp. primorskajensis*である。Beckerは*tenuicornis*の変種として記載したが、その後Voroshilovは、独立種を経て*variegata*の変種に組み替え、さらにEspeutは亜種として組み替えた。筆者の見た集団は石灰岩地帯のカルス台地で、花色が変化に富み、その中にはたしかに日本のゲンジスミレによく似たものもあった。

◆ *Viola tenuicornis*

フイリゲンジスミレの自生地の近くにはよく似た葉脈斑のない集団があり最初はフナシフイリゲンジスミレかと思っていたのだが、よく見ると葉形や葉の展開のしかたなどにもちがいがある。筆者は現在これを*Viola tenuicornis*と同定している。*variegata*に比べると葉は卵形傾向が強く、長い葉柄を直立気味に展開する。Kozhevnikov et al. 2019には、この分類群の写真が*Viola brachyseras*として掲載されているが、その学名はウスバスミレに近いもので、その文献にも「針葉樹林に生える」と書かれている。筆者の見た自生地は中露国境に近い内陸地帯で、モンゴリナラの疎林や草原の広がるエリアであり針葉樹林とはほど遠い。針葉樹林は日本海寄りの起伏のあるエリアにしかない。単純な編集上の取り違いと考えられる。

その亜種とされるものが*subsp. trichosepala*である。これはハサン地方やシコトヴァ近郊など複数個所で見かけた。基本亜種よりも沿岸に近い地方で見る印象だ。Espeut 2020によれば、萼に毛があり子房にはまばらな突起がある点で基本亜種と見分けられる。残念ながら基本亜種の各部の写真は撮っていないが、本亜種の各部の写真には確実にそれが写っている。むしろ、*Viola pharacrocarpa* (アカネスミレ)と紛らわしいが、ご存じのようにその子房の毛はまばらではなく密生する。

本稿の分類は基本的にEspeut2020に準拠したが、分類にはさまざまな異論があり、例えばPOWOでは*Viola tenuicornis*は*Viola pekinensis* (Regel) W.Beckerのシノニムとされている。写真を見ると*pekinensis*は葉先が尖る種であり、見かけは*Viola extremiorientalis*に近く、まったくの別種であることは疑いようがない(むしろこの両種の間関係を精査する必要がある)。

この稿をまとめてみると、次回なにを観察してこなければならないか明確になったが、残念ながらそれを果たせる日が来るかどうか定かではない。

※参考文献

Kitagawa, M., 1979, Neo-Lineamenta Florae Manshuricae, J. Cramer Verlag.

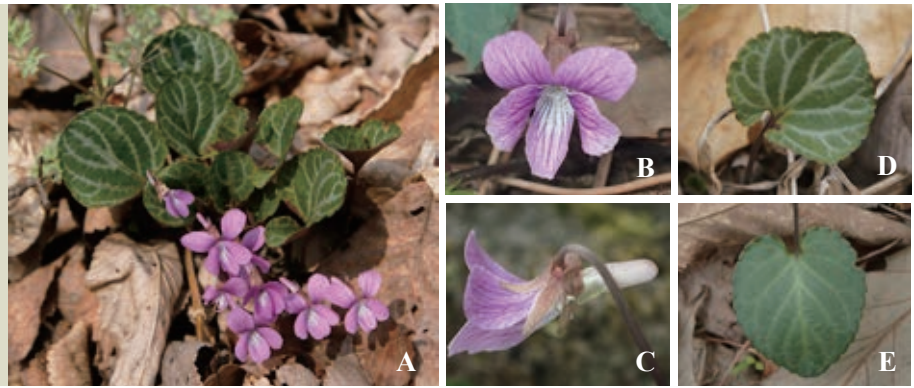
Charkevich, S. S. (ed.), 1989, Plantae Vasculares Orientis Extremi Sovietici, Tomus 2, Nauka.

Kozhevnikov, A. E., Kozhevnikova, Z. V., Kwak, M. & Lee, B. Y. 2019. Illustrated Flora of the Primorsky Territory: Russian Far East. Vladivostok: Federal Scientific Center of the East Asia Terrestrial Biodiversity, FEB RAS & National Institute of Biological Resources.

Espeut, M., 2020, Revision of the genus *Viola* L. (Violaceae) in the Russian Far East with notes on adjacent territories, Bot. Pac. 9(1): 3–52.

***Viola variegata* Fischer ex Link
var. *variegata***

日本ではフィリゲンジスミレの和名でよく知られている。プリモリーエでは1カ所で見えていない。ロシア領ではそれほど普通のものではないが、韓国では数カ所で見かけた。その中には葉脈上の白い斑がほとんどないものもあった。**ABCD** ウスリースク近郊 **E** 京畿道



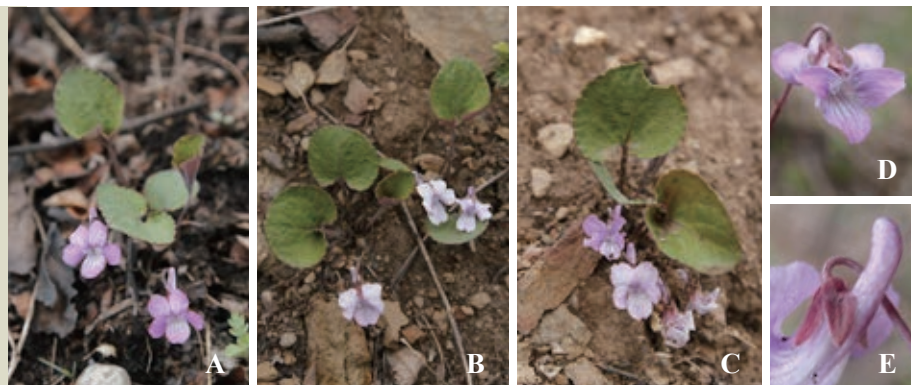
***Viola variegata* Fisch. ex Link var.
nipponica Makino**

日本列島に分布するゲンジスミレ。*variegata* や *primorskajensis* に似ているが、まったく同じものは大陸では見かけない。標本での識別が難しいこともあり、現状では変種に位置づけられるが、生きた植物を見ると、この分類群はまず見分けられる。**ABCDE** 岩手県



***Viola variegata* subsp. *primorskajensis*
(W. Becker) Espeut**

プリモリーエ南部の石灰岩地帯で見た。それほど大きくない集団内で花色の変異があり、なかには日本のゲンジスミレに近いものもあるが、まったく同じ色調のものはない。ロシアでは Voroshilov 以来の独立種説がとられるが、Espeut は *variegata* の亜種に組み替えた。ここではその説を採用するが、上記3分類群は独立種も捨てきれない。**ABCDE** シコトヴァ近郊



***Viola tenuicornis* W. Becker
subsp. *tenuicornis***

中露国境付近でよく見かける集団。subsp. *trichosepala* と混乱しやすいが、生植物では花の色も大きく違う。花色は *variegata* に似るがより明るい赤紫色である。また葉は直立する傾向 (vs. 水平に展開) があり、卵形になる傾向 (vs. 円形) が強い。**ABCD** ウスリースク近郊



***Viola tenuicornis* W. Becker
subsp. *trichosepala* W. Becker**

tenuicornis の変種に位置づけられる。しかし、生植物で見ると、花色や花弁の質感に相当なちがいがあり、別種である可能性も高い。萼片や子房に毛があり、唇弁の距が太いのが変種の特徴とされるが、距の形にはともに変異がある。また、*pharacorocarpa* とちがって子房の毛は密生することはない、まばらな突起状である。**ABCDE** シコトヴァ近郊



春の薬草観察会・道中記

・ 学術委員 池村 国弘 ・

東京生薬協会では、学術委員会が中心となり、毎年春4月頃に「春の薬草観察会」、そして秋9～10月頃には「秋の薬草観察会」を開催しています。

広く一般に参加希望者を募るとともに、薬用植物指導員認定者のフォローアップ研修を兼ねて、近郊の山野、あるいは緑豊かな公園等を会場として行われる野外イベントであり、50名程度の定員が毎回概ね、開催日を前にして受付締切とさせて頂くほど人気を得ています。15名ほどのグループに班分けし、各班に講師(当協会の学術委員)が付いて皆様をご案内します。今回は、その開催の模様と舞台裏をご紹介しますと思います。

集合・スタート

今年の「春の薬草観察会」は4月25日(土)、青梅丘陵にて開催いたしました。AM10:00、青梅駅のひとつ先、無人駅の宮ノ平駅前に集合し、標高300mほどの尾根沿いの山道を東へ進み、途中



出発前の講師紹介



今回のコースマップ

昼食を挟んで、15:00頃に青梅駅付近で解散するコースで、49名のご参加を頂きました。

今回は3班構成。冒頭に学術委員長の挨拶や注意事項、各班の講師紹介ののち、各班が近づきすぎないように、1班から順次、5分ほどの間隔を置いてコースへと出発しました。

薬草、そして薬用以外の植物との遭遇

コースを歩けば、日本薬局方に収載される薬用植物や、民間薬で用いる植物のほか、薬用でなくとも魅力的な葉や花を見せる植物、ときには注意すべき有毒植物との出会いが待っています。それら種々の植物たちとの向き合い方として、視覚情報のみならず、香りを確かめ、あるいは触れてみて(もちろん講師の監督のもと、安全な種類のみ)等々、印象に残る「植物体験」をお届けしています。図鑑やオンラインでは不可能な、リアル開催ならではの魅力です。

今回は自生ホオノキの開花に、タイミングよく巡り合いました。ホオノキは樹皮が生薬(コウボク)となる重要な薬用植物である一方、花も直径15cm以上の立派なたたずまいで、実物ならではのスケール感を参加者も実感されたと思います。

オニグルミは雌雄同株異花の落葉高木。雌花序は、たいてい高いところの枝に生じ、観察が難し



ホオノキの花



オニグルミの雌花序



シルクの手触り、シロダモの若葉



朱も鮮やかにヤマツツジ

いのですが、今回は斜面下のオニグルミを斜面上方の山道から観察でき、眼前に雌花序が見られ、深紅の柱頭をつぶさに観察する機会に恵まれました。

シロダモは常緑の小高木で、毎春に新しい葉を展開します。まだ幼若で柔らかい葉には、強い光によるダメージを避けるための銀白色の毛が密生していますが、この触感がシルクやベルベットのように癒されるのです。この若葉も1か月も経てば硬くなり、毛も失われてしまうので、今の季節だけのお楽しみです。

コース後半では、ちょうど開花期のヤマツツジ群落にも出会いました。株ごとに朱色の明るいもの、真紅に近いものなど花色の個体差が明瞭で、庭園などでの単一品種の植栽とは違った、自然の花風景を知ることができました。

参加者それぞれの観察体験

今回、観察会に参加された方からも、道中で撮影された画像をお借りすることができました。思い思いに植物と向き合って、楽しまれている様子が伝わってきます。

アケビ(生薬名 モクツウ)やクロモジ(生薬名 ウショウ)の自生の様子を捉えた画像を頂きました。スマートフォンなどで気軽に写したスナップも、立派な生態写真です。薬用とはしないマルバウツギも咲き、緑深まった山道に白い花が明るさを添えていました。また生薬テンナンショウの基原植物と同属(マムシグサ類)の、不思議な造形の仏炎苞も印象的でした。

こうして撮りためた画像が、後日、思い出とともに貴重な記録として役立つことがあるかもしれません。お写真をご提供頂いた皆様に、この場をお借りしまして御礼申し上げます。



アケビ(対生する葉はツルニチニチソウ)



クロモジ



咲き始めたマルバウツギ



マムシグサ類

◇野生薬草採集会について 東京都衛生局薬務部 都で毎年実施しているこの催しも、本年も下記により第一回を開催いたします。会員のみなさんの多数参加を希望いたします。	○日時、昭和37年4月22日(日) ○場所、高尾山 ○対象、一般市民 ○講師、東京大教授角倉一先生外 ○集合場所、時間、高尾山ケーブル清流駅前 午前10時 ○昼食、採集具等持参のこと。
--	--

1962(昭和37)年4月の会報より

薬草観察会のルーツ

当協会 Web サイトの「歴史・沿革」のページには、64 年前(昭和 37 年)の会報が掲載されており、ここには薬草観察会のルーツである「野生薬草採集会」の参加案内記事が載っています。当時「野生薬草採集会」は、オンシーズンには毎月のように

開催されていたようです。

後年、自然環境保全意識の高まりなどの社会情勢の推移を受け、採集を行うことはなくなり、薬草を「採る」よりも「知る」ことを主眼として、現在の年 2 回の「薬草観察会」へと続いています。

[illegible]

(正式な集合写真は「連絡事項」のページにあります)

楽しく安全な観察会は、入念な下見から！

当協会の薬草観察会では毎回、開催2～3週間前に、講師や事務担当の数名で下見を行っています。当日と概ね同じ時間帯に、予定コースをひととおり歩いて、当日の状態を予測しながら植物を同定しリストアップすると同時に、複数の経路候補がある場合は絞り込む、などの作業をします。下見はタイミングが肝心で、あまり早いと当日の植物の状態予測が外れますし、あまりに直前では、当日までの準備に抜け漏れが生じかねません。

もうひとつ、下見の重要な目的が「安全確認」です。地図の情報は古くないか？集合場所や昼食場所は50人が集まるのに安全か？一般道を歩く区間では道幅や交通量はどうか？山道には崩落や倒木などの危険箇所が生じていないか？トイレは快適に使えるか？…などなど、現地を実踏してこそ確実なデータが得られ、ご参加の皆様を安心してお迎えすることができます。当然、団体保険にも加入するとはいえ(当日集合時に頂いている100円は保険料です)、事故無く安全に帰ってくることが、今後も葉草観察会を継続する上での基本原則です。このためにも、毎回の丁寧な下見が必須と考えています。

フィールドのサプライズを皆様へ

野外の植物たちは、名札が付いていないことも多く、その出会いは一期一会です。さらには参加者の皆様からは予想外の疑問・質問も頂くこともしばしば。講師には植物の同定能力は勿論のこと、臨機応変な対応スキルも要求されます。

野外を会場とし、一般公募型かつ学術的な見地から知識を得られる薬草や野草の観察会は、意外と多くありません。当協会の春・秋の観察会は、広く皆様に「ナマの植物」を体感して頂く貴重な場として、今後も継続してまいりたいと考えております。

次回は「秋の薬草観察会」として、9月26日(土曜日)、都心に残された緑豊かな国立科学博物館附属自然教育園(港区)での開催が決まっております。日程が近づきましたら、当協会 Web サイトや東京都薬用植物園の掲示板でもご案内してまいりますので、本稿をお読み頂いた皆様にも、ぜひご参加を検討頂けましたら幸いに存じます。

・ 委 員 会 だ よ り ・

総務委員会

会報 480 号でご報告しましたように、公益法人制度が改正されたことに伴い、外部理事・外部監事を設けることになりました。

更に、当協会の役員体制を充実させる目的で、定款を変更して、理事を 26 名から 30 名に、副会長を 4 名から 5 名に、特任理事を 1 名から 2 名に、常務理事を 7 名から 8 名に、それぞれ上限を増やしました。

また、昨年の定時総会で新たに副会長を設けることが承認されましたが、それに伴い理事の職務権限規程および会費規程に副会長の項目を新たに設けることとしました。

生薬栽培に関する連携協定先が増えているなど、当協会の業務が拡大しています。更なる発展に備えた強固な体制作りを進めてまいりますので、会員の皆様には引き続きご支援ご協力をお願いいたします。(M.T.)

学術委員会

平素より学術委員会の活動にご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、学術委員会の主な活動としては「**1号事業：生薬、薬用植物等の普及啓発に関わる活動**」として①薬草観察会 ②生薬に関する懇談会 ③薬用植物・生薬・漢方に関する講座 ④新常用和漢薬集の改訂(一部、3号事業と重複)、「**3号事業：生薬資源等の基原・品質・薬理等の調査研究に関わる活動**」として⑤日本薬局方原案検討委員会等への参加、「**4号事業：生薬、薬用植物等に関わる人材の育成に関わる活動**」として⑥薬用植物指導員認定フォローアップ研修などがあり、それぞれに各委員が積極的に作業を行っております。

前会報(第 480 号)では、⑤日本薬局方原案検討委員会等への参加に関わる活動について紹介させていただきましたので、今回は、④新常用和漢薬集の改訂についての紹介をさせていただきます。

現在、当協会のホームページ(HP)は広報委員会との共同作業になりますが、HP の新常用和漢

薬集には 166 品目の生薬が収載され、それぞれの生薬について生薬と基原植物の写真をはじめ、基原、調製、産地、性状、成分、選品、適応、漢方処方例、貯法などが要領良くまとめられ、その他、漢方製剤の処方内容を記した「処方一覧」、難解な漢方専門用語を解説した「用語解説」などもあって漢方に関わる情報が簡単に得られようになっています。それだけに、利用頻度は非常に高く、令和 7 年度のアクセス数のトップ 10 は カンゾウ(14,984 件)、オウバク(14,149 件)、ブクリョウ(12,095 件)、ダイオウ(11,533 件)、マオウ(10,605 件)、オウレン(10,177 件)、ケイヒ(10,122 件)、ジオウ(9,782 件)、オウゴン(9,689 件)、キョウニン(9,491 件)の順でした。

166 品目の内訳は『第十八改正日本薬局方』収載生薬が 146 品目、『日本薬局方外生薬規格 2022 (局外生規 2022)』収載生薬が 20 品目です。今、私たちが、目指しているのは、『第十八改正日本薬局方』収載生薬で粉末、精油、エキス、チンキ剤など以外の主な生薬(173 品目)をすべて、収載することです。つまり、残り 27 品目を一日も早くアップしたいと委員全員が奮闘中なのですが、なんと、今年 4 月、『第十九改正日本薬局方』が公布され(令和 8 年 4 月 10 日)、新たな日局に対応する必要が生じ、さらに作業が増えることになりました。(Y.S.)

薬用植物園事業管理委員会

関東地方は 2025 年 11 月から 2026 年 2 月初旬までの降水量は、東京都心が平年比 24%、平年の 3 割前後にとどまっています。特に 1 月は東京、横浜、千葉など多くの地点で降水量が一桁ミリにとどまり、千葉では 1.5 ミリという“ほぼ無降水”の状態が続き、冬季にこれほど雨が降らないのは観測史上でも極めてまれといわれています。

昨年の夏もそうでしたが、東京都薬用植物園の木々や草花たちは「水が欲しい」と悲鳴をあげ、「春の妖精」といわれる野草たちは開花が遅く且つセツブンソウやニリンソウなど多くの花が例年に比べて小さいことに驚きました。

この夏も猛暑で少雨になりそうだという予報が出ていますし、前回報告しましたがチュウゴクア

ミガサハゴロモという新種の害虫が急増していますので、今後の圃場や林地の管理が大変になりそうです。

猛暑は年々厳しくなっていますが、夏場の来園者数が大幅に減少しています。

7月8月の合計来園者数の記録では令和元年が12,459人、令和2年が11,621人と1万人を上回っています。令和5年まで1万人を超えていましたが、令和6年が8,341人で令和7年は8,637人と大幅に減少しています。今年度もこの傾向は続くのではないかと考えられます。

園のイベント「薬草教室」は、今年度も4月から12月まで8回(8月を除く毎月1回)企画しています。毎回好評で定員を大きく超える事前申し込みがあります。昨年までは園の窓口と往復はがきによる申込受付でしたが、今年度から時流に合わせてポスターやホームページにあるQRコードを読み取ってスマホやパソコンから申し込めるようになりました。

園内で花の苗や書物や雑貨などを販売していた草屋舎というログハウス風の売店がありましたが、昨年12月21日をもって閉店いたしました。

定期的に花の苗などをお買い求めだった馴染みの方からは残念がられています。

(T.Y.)

薬用植物国内栽培事業委員会

中国において、十数年来、生薬の価格高騰時に低品質の薬材や造假薬材が出回る問題、各地での無秩序な栽培や育成年数の短期化、農薬・化学肥料の乱用による薬材の形態や薬効成分の変化など、従来の古い基準では生薬の品質を担保することが困難となってきたことに対する対策の重要性が叫ばれてきました。これに対し2018年12月3日、中華中医药学会は商品の規格等級基準として「中薬材商品規格等級(226種類)」を策定しました。生薬の国産化を進める上では、中国の規格についてもしっかり把握しておく必要があると思います。

以下に“桔梗”の内容を紹介します。

T/CACM 1021.116-2018

中薬材商品規格等級 桔梗

生薬名：桔梗

ラテン名：PLATYCODONIS RADIX

基原植物：Platycodon grandiflorum (Jacq.) A.DC.

春と秋の2季に収穫し、洗浄して細根を取り除き、新鮮なうちに外皮を剥くか、そのまま乾燥させた乾燥根。

規格：市場での流通状況に基づき、加工方法の違いにより「皮去桔梗」と「帯皮桔梗」の規格に分類し、各規格はさらに「選別品(選貨)」と「一般品(統貨)」の2つの等級に分けられる。

規格等級画分：

1) 皮去桔梗

乾燥品。円柱形またはやや紡錘形。細根を取り除き、新鮮なうちに外皮を剥く。表面は淡黄白色から黄色で、縦方向にねじれた溝があり、横長の皮孔状の斑痕や側根痕が見られ、上部には横縞がある。質は脆く、断面は平坦ではなく、形成層環は褐色、皮部は黄白色、木部は淡黄色である。香りは微かで、味は微かに甘く後に苦味がある。

・**選貨：**高品質の選別品。直径1.0~2.0cm、長さ12~20cm。肉厚で充実し、分節は少ない。

・**統貨：**無選別の並み品。直径0.7cm以上、長さ7cm以上。

2) 帯皮桔梗

乾燥品。円柱形またはやや紡錘形。細根を除去し、外皮は残す。表面は黄褐色から灰褐色で、縦にねじれた溝があり、横長の皮孔状の斑痕および側根痕があり、上部には横縞がある。質は脆く、断面は平坦ではなく、形成層環は褐色、皮部は黄白色、木部は淡黄色である。香りは微かで、味は微かに甘く後に苦味がある。

・**選貨：**高品質の選別品。直径1.0~2.0cm、長さ12~20cm。肉厚で充実し、分節は少ない。

・**統貨：**無選別の並み品。直径0.7cm以上、長さ7cm以上。

注1：桔梗の規格は、もともと産地によって「南桔梗」と「北桔梗」に分けられていたが、現在では市場において桔梗の南北の区別という概念は薄れつつある。しかし、現在の市場における桔梗の薬材には依然として産地の違いがあり、主な産地は安徽省や内モンゴル自治区などである。

注2：現在、市場では硫黄処理を施したものが時折見られる。これは主に乾燥を容易にし、油分の流出や発芽を防ぎ、白さを高めるためであるが、中国薬典の規定に合致しないため、使用しないよう注意すべきである。

注3：桔梗薬材の歴史的な産地の変遷については、付録Bを参照のこと。(本稿では省略)

注4：桔梗薬材の品質評価に関する沿革については、付録Cを参照のこと。（本稿では省略）

要 求：T/CACM 1021.1-2016《中薬材商品規格等級標準級編制通則》第7章の規定に適合することに加え、以下の要件にも適合しなければならない。

1. 硫黄による燻蒸処理が施されていないこと。
2. 虫食いが一切ないこと。
3. 変色がないこと。
4. 不純物が3%以下であること。

なお、価格は市場や産地、時期によって変動しますが、例えば、2015年12月、陝西省商洛市商州区における桔梗の取引相場は安定し、地元産の去皮桔梗の選貨は45元前後、統貨は30元前後、帯皮桔梗は18元前後とであったという（「中薬材天地網」より）。

以上、ご参考まで。（Y.K.）

広報委員会

1. 委員会構成員について

役員改選となりましたが、委員長、副委員長は再選され、委員1名が企業内の異動により交代しました。構成員はこれまでと同様の4名ですが、法人会員が1名しかおりません。いろいろな企業から参加していただけると大変心強いのですが。

2. 会報について

寄稿は、前号に引き続き川添先生といがり氏にお願いするとともに、学術委員会・東京都薬用植物園共催の「薬草観察会」について紹介することにしました。執筆者の広報委員長は学術委員で観察会の講師でもあります。

「委員会だより」は、議事録や行事をまとめた報告書になりがちです。委員会以外の方にも興味をもってもらえるよう、このコーナーを協会の役割や業務をアピールする場にしてみたいと思っています。「このようなことを目標に行事を計画しました」、「このような活躍をされている方に講演をお願いしました」、「今は無理でも近い将来このような計画を考えている」など、報告とは異なる裏話的な情報も提供できたらどうでしょうか。

また事情が許せば、薬用植物栽培事業についての栽培状況や苦労話などを各自治体から伺い、現

場の大変さや成功例を紹介できればと思います。

会報はまた、法人はもとより個人会員間の積極的な情報交換の場になってもらえたら、と思っています。たとえば「我が社の生薬今昔」などのテーマで、各企業から生薬利用についての自慢話や苦労話を事業に支障がない範囲で紹介していただき、協会全体で現状を把握したり解決策を見いだせたらおもしろいのではないと思いますが、いかがでしょう。それには法人会員皆さんの全面的な協力が必要です。

3. Webサイトのアクセス状況について

2026年1月から6月までのページビュー数と前年度との比較は下表の通りです。なお、年間毎の詳細データは「事業報告書」に記載されていますので、そちらも是非ご覧ください。

ページビュー数が1割程下降してしまった前年の影響もありますが、3割から6割も増えており、ありがたいことです。この期間によく見られているページは、これまでと同様「新常用和漢薬集」がトップですが、「季節の花」もそれに劣らないほどアクセス数が伸びてきました。生薬とその原植物との関係をきちんと把握しようという好ましい姿勢が現れているように思えます。それらの各項目アクセス数は特定の生薬や植物が突出するケースがこれまで続いていましたが、重要な生薬や花・果実などの時節に合った植物への常識的なアクセスがなされています。（H.W.）

■ Webサイトのアクセス状況

	ページビュー数	前年同月比
2026年1月	50,159	130.3%
2月	55,594	158.4%
3月	65,363	160.2%
4月	92,563	139.2%
5月	120,244	137.8%
6月	114,887	168.0%

連絡事項

I. 令和7年度 第4回理事会

日時：令和8年3月16日(月) 16:00～17:00

場所：当協会東神田事務所+オンライン

議案・報告事項：

1. 令和8年度事業計画書(案)、収支予算書類(案)について
2. 会員の入退会について
3. 委員会委員の新任、退任について
4. 委員長・副委員長の新任・退任について
5. 連携協定変更覚書について(新潟市)
6. 連携協定締結について(伊勢原市)
7. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況について
8. 農水省国庫補助事業応募申請について

II. 令和8年度 第1回・第2回理事会・定時総会 第1回理事会

日時：令和8年6月2日(火) 16:00～17:00

場所：当協会東神田事務所+オンライン

定時総会

日時：令和8年6月19日(金) 16:00～17:00

場所：当協会東神田事務所+オンライン

議案・報告事項：

1. 令和7年度事業報告書(案)、計算書類(案)について
2. 任期満了に伴う役員改選について
3. 定款一部変更及び規程の一部変更について
3. 会員の入会について
4. 委員会委員、薬用植物栽培指導員の新任について
5. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
6. 農林水産省国庫補助金交付について
7. その他

第2回理事会

日時：令和8年6月19日(金) 17:00～17:15

場所：当協会東神田事務所+オンライン

審議事項：

1. 役付理事の選定について

III. 行事報告

1. 令和8年度薬草教室

第1回

開催日：令和8年4月15日(水)10:00～11:30

場 所：東京都薬用植物園

テーマ：植物の形態観察をふり返る

講 師：南雲 清二(星薬科大学 名誉教授)

参加者：100名

第2回

開催日：令和8年5月21日(木)10:00～11:30

場 所：東京都薬用植物園

テーマ：男女の更年期に漢方力を！！

講 師：新井 信(東海大学医学部 客員教授)

参加者：83名

第3回

開催日：令和8年6月17日(水)10:00～11:30

場 所：東京都薬用植物園

テーマ：植物で整える一未病への知恵

講 師：杉本 幸子(順天堂大学薬学部 准教授)

参加者：96名

2. 春の薬草観察会

開催日：令和8年4月25日(土)

10:00～15:00

場 所：青梅丘陵(東京都青梅市)

講 師：池村国弘、福田達男、和田浩志
(五十音順)

参加者：49名



ご寄附をいただいた皆様へ

一般寄附金の趣旨にご賛同並びにご寄附をいただきまして、お礼申し上げます。

皆様からいただきました一般寄附金については、寄附金総額の25%以上を翌年度以降に行われる公益目的事業に使用させていただきます。

令和7年度の「一般寄附金」の件数と金額を公表させていただきます。

今後とも公益目的事業へ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年4月1日～令和8年3月31日

件 数	金 額
28 件	¥18,431,000

令和8年度

新役員名簿

役職名		氏 名	勤務先及び役職名
理事	会 長	藤井 隆太	株式会社龍角散 代表取締役社長
	副 会 長	上原 茂	大正製薬株式会社 代表取締役社長
	〃	加藤 照和	株式会社ツムラ 代表取締役社長 CEO
	〃	堀 厚	救心製薬株式会社 代表取締役社長 COO
	〃	立崎 仁	株式会社常磐植物化学研究所 代表取締役社長
	〃	末次 大作	個人正会員
	専務理事	相原かほる	個人正会員
	特任理事	田中 建次	公益社団法人東京生薬協会 事務局長
	〃	山上 勉	東京都薬用植物園 統括責任者
	常務理事	建林 佳壯	株式会社建林松鶴堂 代表取締役社長
	〃	片桐 仁史	株式会社太田胃散 取締役員信頼性保証部 部長
	〃	渡邊 康一	三宝製薬株式会社 代表取締役社長
	〃	田中 英雄	養命酒製造株式会社 代表取締役社長 COO
	〃	竹内 眞哉	株式会社山崎帝國堂 代表取締役社長
	〃	大泉 高明	株式会社大和生物研究所 代表取締役社長
	〃	平井 敦司	田村薬品工業株式会社 取締役 営業戦略本部 本部長
	〃	陳 志清	イスクラ産業株式会社 代表取締役社長
	理 事	山崎 充	株式会社金冠堂 代表取締役社長
	〃	家高 一彰	長野県製薬株式会社 管理部兼営業部 課長補佐
	〃	山内 盛	個人正会員
	〃	樋口 隆	三国株式会社 取締役東京支店長
	〃	福井 厚義	大東製薬工業株式会社 代表取締役社長
	〃	清水雅楽乃	アステナミネルヴァ株式会社 代表取締役社長
	〃	小林 義典	北里大学薬学部附属東洋医学総合研究所 所長
	〃	宇津 善博	宇津救命丸株式会社 代表取締役会長
	〃	坂口 眞弓	個人正会員
	〃	西岡 哲志	美康堂生薬日本株式会社 顧問
	外部理事	小野 稔	公益社団法人東京都薬剤師会 相談役
監事	監 事	渡邊 謹三	個人正会員
	〃	加賀 亮司	個人正会員
	外部監事	岡根 広一	公益社団法人東京薬事協会 事務局長

令和8年度 事業・イベント予定一覧（事業別）

事業			テーマ	日 程	場 所	講 師（敬称略）
1号事業 （学術委員会）	薬草観察会	春	春の薬草観察会	令和 8 年 4 月 25 日（土）	青梅丘陵（青梅市）	池村 ・ 福田 ・ 和田
		秋	秋の薬草観察会	令和 8 年 9 月 26 日（土）	自然教育園（港区）	池村 ・ 福田 ・ 南雲
	生薬に関する懇談会	第41回	山椒（サンショウ）	令和 8 年 10 月 4 日（日）	北里大学薬学部	日本生薬学会関東支部と共催
	薬用植物・生薬・漢方に関する講座 （5回）	第1回	生薬のチカラは漢方のチカラⅦ 耳鼻咽喉科の漢方	令和 8 年 8 月 30 日（日）	東京都薬用植物園	川添 和義（昭和医科大学薬学部 教授） 内藤 雪（ユキクリニック耳鼻咽喉科 院長）
		第2回	漢方の口訣 心に通く漢方・不安症を対象として	令和 8 年 9 月 27 日（日）	〃	針ヶ谷 哲也（金直会診療所 理事薬局長） 杵刈 彰（青山杵刈クリニック 院長）
		第3回	漢方製剤を上手に活用するためのヒント ストレス社会に役立つ漢方薬とその可能性	令和 8 年10月 25 日（日）	〃	小林 義典（北里大学薬学部 東洋医学総合研究所 所長） 星野 卓之（北里大学東洋医学研究所漢方鍼灸治療センター長）
		第4回	薬を創った植物たちⅡ 漢方処方決定のプロセス～診断から治療まで～	令和 8 年11月 29 日（日）	〃	松崎 佳一（日本大学薬学部 教授） 新井 信（東海大学医学部 客員教授）
		第5回	かぜの治療に用いられる漢方薬 消化器疾患と漢方	令和 8 年12月 20 日（日）	〃	小池 一男（東邦大学薬学部 名誉教授） 及川 哲郎（東京医科大学 教授）
	新常用和漢薬集の改訂	旧版収載の和漢薬（236品目）について内容を見直し、ホームページに公開（166品目公開中）、日本薬局方（18局）追補と照合し、改訂作業を実施				
1号事業 （総務委員会）	薬草収穫感謝の会	生薬・薬用植物の一年の収穫を感謝し、講演会、植物観察会を開催する。		令和 8 年11月 7 日（土）	東京都薬用植物園	共催：東京都、（公社）東京生薬協会、（公社）東京薬事協会、（公社）東京都薬剤師会、本町生薬会
1号事業 （事務局）	OTC医薬品とセルフメディケーション	第18回	よく知って、正しく使おう OTC医薬品	令和 8 年 10 月 2 日（金） ・ 3 日（土）	神田明神・文化交流館	共催：6団体（東京生薬協会、東京薬事協会、日本家庭薬協会、日本OTC医薬品協会、東京都薬剤師会、東京都医薬品登録販売者協会） 後援：東京都、厚生労働省、千代田区、
1号事業 （広報委員会）	会報の発行	第481号、第482号		令和 8 年7月 令和 9 年1月	会報No.481／2026.7発行 巻頭言：萩原欽也 神奈川県伊勢原市長、生薬解説：磯田 進、 会報No.482／2027.1発行 巻頭言： 藤井隆太、東京都福祉保健局健康安全部長、生薬解説：磯田 進	
	協会ホームページの更新	「お花の見ごろ情報」「最新イベント情報」「新常用和漢薬集」「協会概要」等の更新				
1号事業② （事業管理委員会）	東京都薬用植物園受託事業	東京都薬用植物園の受託管理事業の充実と共に、栽培技術の向上と伝承を図り、薬用植物や生薬に対する知識・情報を国民に対し正しく普及啓発する活動を積極的に実施する。			1) 東京都薬用植物園の事業管理 2) 薬用植物や生薬の普及啓発事業 3) 研修業務 4) 薬用植物、生薬の栽培業務 5) 薬用植物、生薬の収集・保存・展示業務 6) 調査研究補助業務 7) 鑑定、鑑別補助業務	
	薬草教室（8回）	第1回	植物の形態観察をふり返る	令和 8 年 4 月15 日（水）	東京都薬用植物園	南雲清二（星薬科大学 名誉教授）
		第2回	男女の更年期に漢方の力を！！ ～人生の黄金期を健やかに過ごす～	令和 8 年 5 月 21 日（木）	〃	新井 信（東海大学医学部 客員教授）
		第3回	植物で整える一未病への知恵	令和 8 年 6 月17 日（水）	〃	杉本幸子（順天堂大学薬学部 准教授）
		第4回	多肉植物について	令和 8 年 7 月 23 日（木）	〃	岡部晃孝（岡部ナーセリー）
		第5回	渡良瀬遊水地植物散歩 ～夏から晩秋まで～	令和 8 年 9 月 29 日（火）	〃	加藤裕一（日本植物友の会 理事）
		第6回	秋の七草とその効用	令和 8 年10月16 日（金）	〃	榊原巖（日本薬科大学 特任教授）
		第7回	春蘭の魅力	令和 8 年11月18 日（水）	〃	榎本純弥（愛蘭家）
		第8回	薬用ジャコウヤクを事例に 高密度微生物栽培地紀 × 物理性 × 栄養周期 × 生物性での栄養周期理論	令和 8 年12月15 日（火）	〃	関浩一（つくば牡丹園 園長）
	イベント事業（16回）	第1回	ケシのパネル展	令和8年4月14 日（火）～5月15 日（金）	〃	展 示
		第2回	ケシのミニ講座	令和8年5月5 日（火）・6 日（水）	〃	薬用植物園職員
		第3回	季節の花でアレンジ作り	令和 8 年 5 月 30 日（土）	〃	田淵清美（アトリエ clover主宰）
		第4回	ラベンダーステック	令和 8 年 6 月 27 日（土）	〃	神蔵いくよ（園芸研究家）
		第5回	ハーブでサシェ作り	令和 8 年 7 月 11 日（土）	〃	浅井昭子（Herb House Tentou主宰）
		第6回	喜休み親子植物教室 葉っぱで絵をかこう・花のおしりを作ろう	令和 8 年 7 月 25 日（土）	〃	中山 麗子（日本アロマ環境協会 環境力オリスタ）
		第7回	薬草クイズラリー	令和 8 年 8 月 23 日（日）	〃	公益社団法人東京生薬協会
		第8回	アロマロールオン	令和 8 年10月10 日（土）	〃	浅井昭子（Herb House Tentou主宰）
		第9回	落語に見る食の風景 その10	令和 8 年10月 17 日（土）	〃	一升亭吾介（落語研究家）
		第10回	多肉植物のハンギングタブロー	令和 8 年11月 14 日（土）	〃	山 浩美（園芸研究家）
		第11回	クリスマスリース	令和 8 年11月 21 日（土）	〃	田淵清美（アトリエ clover主宰）
		第12回	樹脂と香りの果てなき世界	令和 8 年11月 28 日（土）	〃	山下 智道（野草研究家）
		第13回	木の実・草の実リース作り教室	令和 8 年12月10 日（木）	〃	中山 麗子（日本アロマ環境協会 環境力オリスタ）
		第14回	しめ縄飾り	令和 8 年12月12 日（土）	〃	神蔵いくよ（園芸研究家）
		第15回	健康講座	令和 9 年 3 月 5 日（金）	〃	公益社団法人東京薬事協会
		第16回	ポタニカルアート&東洋蘭展	令和9年3月12 日（金）～14 日（日）	〃	公益社団法人東京生薬協会
2号事業 （栽培学委員会）	栽培に関する情報交換検討会			令和 8 年 5 月 29 日（金）	（公社）東京生薬協会東神田事務所	栽培指導員
3号事業 （学術委員会）	日本薬局方原案検討委員会への参加			生薬等A委員会および生薬等B委員会に委員を派遣する。		
3号事業 （栽培学委員会）	視察研修	美郷町栽培地研修		令和 8 年6月28 日（日）	開会式：美郷町住民活動センター 植樹会場：旧花岡スキー場	薬樹の森づくり活動植樹事業
	薬用植物国内栽培の実施	神奈川県伊勢原市、秋田県八峰町、秋田県美郷町、新潟県新潟市、岐阜県岐阜市、大分県杵築市、熊本県天草市の7自治体				
4号事業 （学術委員会）	薬用植物指導員認定者 フォローアップ研修	薬草観察会		令和 8 年 4 月 25 日（土）	青梅丘陵（青梅市）	
共益事業 （総務委員会） （事務局）	現代化中医薬国際協会（MCMIA）との交流	1）訪問先：MCMCM展示会場、衛生局訪問 2）展示会で薬用植物栽培事業、東京都薬用植物園のポスターを掲示				
	薬用植物生け花展	秋の七草	令和 8 年10月16 日（金）	昭和薬質ビル2F会議室	薬祖神奉賛会協力事業	
	新年賀詞交歓会		令和 9 年 1 月 26 日（火）	神田明神会館		

※予定日等が変わる場合がありますので、開催日の1ヶ月前位に電話等でご確認をお願いいたします。
問い合わせ先：公益社団法人東京生薬協会 042-346-2663

編集後記

広報委員長 池村 国弘

暑中お見舞申し上げます。「会報」481号をお届けします。

巻頭では、本年4月に薬用植物国内栽培の促進に関する連携協定締結を締結しました、神奈川県伊勢原市の萩原 鉄也市長より、薬用植物の栽培・生産の促進への展望について、ご執筆頂きました。関東地方では初の協定となります。栽培を開始するキキョウは伊勢原市の花でもあることで、伊勢原市の関係者の皆さまにも、栽培事業に親しみを持って頂けたら幸いです。

生薬のチカラは、漢方のチカラ(5)では、「高齢者の漢方」として、身体バランスの崩れに有効な「生薬のチカラ」を、豊富な処方例をまじえて、丁寧に解説頂いております。私事になりますが、天候不順時などに頭痛・めまいに悩む知人が、五苓散で軽快した複数の事例に接していたところ、今回ちょうど五苓散についてもご寄稿を頂き、その作用機序の漢方的な捉え方を、個人的にも興味深く拝読させて頂きました。「高齢者の漢方」のテーマは1回の寄稿では十分な解説が難しいとのことと、2回に亘りご執筆頂けることとなり、今号では前編を、年明けに発行予定の次号にて後編をお届け予定です。次号にもどうぞ、ご期待ください。

ロシア・プリモリーエ植物紀行(6)では、スミレ属における定説をみない分類群に関し、フィールドでの豊富なご経験をお持ちの、いがりまさし先生ならではの分析と見解をご提示くださり、非常にホットな記事となっております。大陸にルーツをもつとされるゲンジスミレは、高温多湿な関東平野には見られず、首都圏在住者が出会うには山梨・長野方面などへ足を運ぶ必要があり、個人的には「遠きにありて思うスミレ」です。なお、ゲ

ンジスミレという風雅な和名は、葉裏が紫色を帯びることから、紫式部→源氏物語の連想に由来するとの説があります。ゲンジスミレ類の謎めいた類縁関係もまた、源氏物語の人間模様を彷彿とさせますね！

ご多忙の中、ご執筆・ご寄稿を賜りました諸先生方に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

当協会の活動トピック記事では、学術委員会が中心となって開催する薬草観察会をクローズアップし、青梅丘陵で行われた「春の薬草観察会」を、密着取材記事風のテイストにてお送りしました。記事中にも記載の通り、次回、秋の薬草観察会は、国立科学博物館附属自然教育園にて開催予定です。交通至便な都心部(港区)にありながら、江戸・東京の都市化以前の原植生を現代に伝える【植生のタイムカプセル】のような同園の植物たちの魅力を、皆さまとも共有できればと思います。

表紙・裏表紙の薬用植物として、今号ではオニユリを選びました。オニユリは夏本番に咲くユリです。ときに2mほどに達する茎の頂部から、斑点を散りばめた、濃い橙赤色の花をぶら下げます。炎天下に花を見上げれば、夏空との鮮烈なコントラストが印象に残るでしょう(熱中症にはお気をつけください)。初夏の清純なテッポウユリ、あるいは梅雨の妖艶なヤマユリや、切花で人気のカサブランカ等々、ユリの花のもつ一般的なイメージと、オニユリのそれは、少々異なるように感じます。各地の庭先、あるいは畑の一隅などでもよく植えられていますし、鱗茎(いわゆる球根)を生薬とするため、薬用植物園でもご覧頂けます。今年もきっと猛暑でしょう。オニユリの花から、炎暑を跳ね返すようなストレートな力強さを感じつつ、夏を乗り切って頂きたいと思います。

会報に関するご意見等も、広報委員会のメールアドレス g2koho@tokyo-shoyaku.com へお寄せ頂ければ幸いです。

(表紙) オニユリの解説

元昭和大学薬学部 磯田 進

オニユリ

オニユリ *Lilium lancifolium* Thunberg (ユリ科)は日本から中国、朝鮮半島に分布していますが、しかし諸説ありその一つに大陸からの渡来説がある多年生草本植物です。草丈は1~2m、葉は披針形で長さ10cmくらい、基部にムカゴを生じます。花は夏に咲き、橙赤色で茎の上部に多数つけます。花弁は3枚、その外側には花弁によく似た萼片3枚を生じて強く反り返り、内面に暗紫色の斑点を生じています。果実をつけることはほとんどなく、地下部は鱗茎となり葉は多肉化しています。

各地の草原などに生育している全体的に小型のコオニユリは、果実をつけますがムカゴは生じません。

和名と学名

和名の由来は諸説あり、橙褐色の花弁や萼片の内面に生じる暗紫色の斑点が鬼の顔を連想することや花が大きく真夏でも旺盛に生育するさまが鬼のように逞しいことから名付けられたといわれています。学名(属名)の *Lilium* はラテン語で白い花を意味し、白色のユリ(マドンナリリー・*L. candidum*)に由来しているといわれています。また種小名の *lancifolium* は披針形の葉を意味し、葉の形状によるものです。

生薬

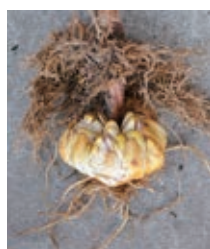
薬用には鱗片葉を用い、ジャクゴウ(百合)といいます。気温が低下し、地上部が枯れた頃に鱗茎ごと掘り取り、細根を取り除き蒸してから日干しにします。生薬は長楕円形~長三角形を呈しています。また中央部はやや厚く、周辺部は薄く僅かに波状、内巻に曲がり、質は堅く折れやすい特徴があります。味は僅かに苦味や酸味があり、匂いはありません。

成分と薬効

成分はフェニルプロパノイド誘導体の1-O-*p*-coumaroylglycerolやステロイドサポニンのsolamargine、デンプン、グルコマンナンなどを含んでいます。精神不安やノイローゼ、気管支炎などの改善を目的とした辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)などの漢方処方に配剤されています。

コラム

生薬のジャクゴウ(百合)はオニユリだけではなく、ハカタユリ(*L. brownii*)や同属植物などの鱗茎の鱗片葉を用います。これらの品種は観賞用として庭などに植栽することが多く、鱗茎は生薬だけではなく食品、花は園芸的に利用されています。我が家の猫の額ほどの庭にもオニユリが数株植栽し鑑賞しています。花が咲く頃気を付けなければならない一つは、雄しべの葯が衣服につくことです。生花店で市販されている高価なカサブランカ(*Lilium* 属の園芸種)などは、この葯を切り取っていますので問題はありませんが、衣服につくと染みになり注意が必要です。因みに赤茶色の葯にはカロテノイドやアントシアニンなどの色素が含まれています。昔から雄しべを切り取ると花は長持ちするといわれていますので、我が家では開花と同時に葯を切り取っています。



オニユリの鱗茎



オニユリのムカゴ



生薬 ジャクゴウ(1目盛=1mm)

No.481

東京生薬協会会報



発行/公益社団法人 東京生薬協会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-11-4
東神田藤井ビル 7F
TEL 03-3866-5522 FAX 03-5809-3855
<https://www.tokyo-shoyaku.com/>
発行/2026年7月31日